

令和6年3月4日 山田美津代一般質問

次に、4番、山田美津代議員の発言を許します。

4番、山田議員！

○4番（山田美津代君） 議場の皆さん、傍聴の皆さん、こんにちは、山田美津代でございます。今いろいろ歩いてますと、いろんな御要望を町民からいただきます。その中から三つ、御要望を選んで3問質問をさせていただきます。

まず1、リレーセンター（旧クリーンセンター）跡地に子供たちのスポーツセンターを検討してはいかがでしょうか。

また防災拠点の位置づけも必要ではないかと思えます。ごみ町民会議ではアンケートを取りどうい御意見が多かったのでしょうか。新しく検討委員会を立ち上げると思いますが、ぜひ若い世代の意見を多くしていただきたいです。新興住宅が増え、子供たちも増えてきている。これからの町を支えていくこの若い世代への施設が必要ではないかと思えます。例えば、スケートボード場やボルダリング場等、リレーセンターは水没するおそれがあるため、1階は駐車場を兼ねて、2階から上を防災機能を持たせた施設にしたら近隣の方も安心ではないかと思えます。会議もできる多目的室なども入れた複合施設としていけば、子供たち、若者、生きがいを求める高齢者など広く多くの方のニーズに沿った施設、箱物でも町民に理解していただけるんじゃないかと思えます。

質問事項2、新興住宅が増えに増えて、インフラが追いついていない。迷惑がかかるのは町民や子供たちではないか。しっかり計画を立てて許可を下すべきだし、許可を出したら、住民、子供たちが増える予想を立てて、教育委員会や生活安全課などと協議して、先に手を打つべきではないか。沢のインドアテニスの前、北側に住宅地ができていて、さらに28軒増える予定で、10トントラックが造成で走り回っています。県道からこの住宅地に入る道が狭い町道沢20号線しかなくて、これ以上住宅が増えると、道が狭く危険と住民が心配をされています。また通学路もマンション前が道が細く、子供たちが通学するそばを車がスピードを落とさず通り危険で、30キロ規制を道路にも書いていただきましたが、まだまだ危険です。また子供たちの人数が増えれば危険度は増えます。早急に手を打つ必要があるのでは。西小も東小も学童保育に待機児童が出る事態になっています。午前中もお二人の議員さんから心配をされた質問が出ていました。こういう事態は予測できなかったのでしょうか。

質問事項3、地域の防災ハザードマップづくりや防災倉庫の充実を。

広陵町でも、南海トラフ地震が起きれば、能登半島地震のような津波は来なくても、地震と火事は起きる可能性があります。そこで備えが大事なことは周知の事実ですが、備えの充実を検討していますか。各大字の防災備蓄品も充実させる必要があります。各大字に計画表提出いただき、支援金増額をしていくことが要ると思えます。平尾区では防災マップを作成されているとお聞きしました。避難所まで行くのにかかる時間や危険箇所などをつかみ、周知が大事です。希望する大字に専門家を配置してマップの作成に取りかかっているでしょうか。資料のほう、タブレットに03と04ですかね、資料を載せてますので開いてごらんになってください。よろしく願いいたします。

○議長（山村美咲子君） ただいまの質問に対し、答弁をお願いします。

山村町長！

○町長（山村吉由君） 山田議員さんの御質問にお答えを申し上げます。

まず1番目のリレーセンター跡地にスポーツセンターを検討してはということについてでございます。

一つ目のごみ処理町民会議のアンケート結果はどういう意見が多かったか。新しく検討委員会を立ち上げると思うが、若い世代の意見を多く聞いた施設が必要ではとの御質問にお答えいたします。

現施設の跡地利用につきましては、令和4年1月に地元及び周辺大字と締結いたしました新協定書において、クリーンセンター及びクリーンセンター南側町有地を含めて協議するものとし、不要となる施設については、跡地利用が決定された後、速やかに撤去するものと規定されております。このことを踏まえ、これまでごみ処理町民会議におきまして、種々議論を重ねてまいりました。ごみ処理町民会議の委員には、跡地をどのように活用していくべきか、あるいはどのような施設が必要かをアンケート形式で回答いただきました。大きく4点の御意見をいただいております。1点目は、防災機能を持たせた公園緑地を整備するというもの、2点目は、中央公民館など、教育文化施設を整備するというもの、3点目は、防災機能を備えた複合的な施設を整備するというもの、4点目は、施設整備は望まない。財政の負担増にならないような町の計画の下、施設整備が必要であるならば検討するというものでございました。

これら様々な御意見をいただきましたが、現時点におきましては、具体的な決定には至っていない状況でございます。また、今後の跡地利用の検討の場についてのアンケート結果では、新たな組織を立ち上げて検討するとの御意見が大多数でございました。今後、新組織を立ち上げるとなった場合には、議員から御提案いただいておりますように、若い世代の方々にも参画していただくよう検討してまいりたいと存じます。

二つ目のリレーセンターは、水没のおそれがあるため、2階以上、防災機能のある施設にすれば、近隣住民も安心ではとの御質問にお答えいたします。

議員御承知のとおり、現リレーセンター敷地は、洪水ハザードマップでは0.5から3メートル未満の浸水想定区域となっております。ゆえに防災機能を持たせるためには、施設そのものだけでなく、施設までのアクセス等も含めた整備について検討する必要があります。なお、ごみ処理町民会議では、現施設は解体せず、そのままの状態、当分の間、リサイクルごみ中継施設として活用するとの御意見を多数いただいております。今後の跡地利用につきましては、議員から御提案いただきましたスポーツセンターも含め、町の将来を見据え、多角的な視点から検討してまいりたいと存じます。

2番目の新興住宅は増えてインフラが追いついていないという御指摘でございます。住宅開発に伴うインフラの整備状況についての御質問にお答えいたします。

本町では、都市計画法第34条第11号による市街化調整区域の指定区域での住宅開発が活発に行われており、本町の人口は減少せず維持されるとともに、西小学校区では、子育て世帯の入居に伴う児童の増加に対応して、令和3年度に小学校の校舎を増築するなどの対策を行っております。これらの住宅開発につきましては、都市計画法に基づき、奈良県が定めた開発許可制度に関する審査基準に適合するよう設計され、県の審査を経て許可されたものでございます。また本町としまし

ても、広陵町開発指導要綱に定めた開発事業に関する事前協議書の提出を受け、関係各課が本町のまちづくりに整合するよう指導しており、民間の調査ではございますが、県内の住みたいまちランキングで常に上位に位置するなど、一定の成果が得られております。議員御指摘の沢地区の町道沢20号線の北側で進められている住宅開発につきましては、平成26年から平成29年にかけて、20戸の造成が行われており、現在、既開発の区画道路に接続する形で28戸の造成工事が行われております。

町道沢20号線につきましては、県道大和高田斑鳩線と町道沢18号線をつなぐ延長約160メートルの町道でございますが、最低幅員が4メートルであることから、県道から当該開発事業区域に至る道路として、開発許可基準に適合しております。町道沢18号線につきましては、県道大和高田斑鳩線に並行していることから、県道を渋滞を避ける抜け道として通行する車両が多いことから、通学路の安全確保のため、路肩にグリーンベルトを設置するとともに、走行速度時速30キロメートル表示をしております。

抜け道の対策としましては、主要地方道天理王寺線のバイパス道路である長楽工区が完成すれば、県道大和高田斑鳩線の交通渋滞の緩和につながることから、毎年奈良県への要望協議の中で当該道路の早期完成を図られるよう強く求めているところでございます。

最後に、学童保育の待機児童につきましては、さきの岡橋議員や岡本議員の御質問にお答えしたとおり、児童に対する利用率が予測を上回る伸びを示しております。原因としましては、在来地域で住宅開発が続いていることもございますが、保護者の働き方の変化などにより、ニーズが高くなっていることと分析しております。

近年の状況を申し上げますと、令和元年度では全小学生のうち、放課後子ども育成教室利用者の割合は16.3%だったのに対し、令和6年度では、申込者の割合が37.4%まで上昇しており、特に1年生・2年生においては、31.3%から61.4%となるなど、低学年の半数以上が利用を希望されているところでございます。町としましては、地域の公民館も含め、既存の公共施設等を活用し、できるだけ多くの利用希望者を受入れすべく、関係部署と協議調整を重ねてまいります。

3番目の地域の防災ハザードマップづくりや防災倉庫充実をとのことについてでございます。

一つ目の地震に備えて、防災倉庫の充実をとの御質問にお答えいたします。本町の防災備蓄倉庫につきましては、広陵町防災拠点倉庫を中核として、12か所の指定避難所に備蓄倉庫を設置しております。今後は未整備の避難所を含め、令和6年能登半島地震を教訓に、優先して備蓄すべき品目、数量を精査し、整備に努めてまいります。また、自宅等で避難される場合の家庭内備蓄とローリングストック法の重要性につきましても推奨しておりますが、今後さらに啓発してまいります。

二つ目の各大字の防災備蓄品を充実させるための支援金増額についての御質問にお答えいたします。

本町では、震災時等における町民による初期消火や避難体制等の整備強化を図るため、自主防災組織の育成促進を行う事業に対して補助金を交付しております。例えば、救護や救助用等資機材整備事業に関しては、自主防災組織結成時の初年度は、事業経費の補助率10分の10で、上限額50万円の補助、2年目以降は補助率は2分の1とし、上限25万円の補助、また消防ホースや消火器等の消防設備事業に関しては、補助率は2分の1とし、上限25万円の補助を行っております。さらに防災訓練等活動事業に関しては、補助率10分の10とし、上限5万円の補助制度がござい

ますので、活用していただければと存じます。

三つ目の希望する大字に専門家を配置して、マップ作成に取り組んではどうかとの御質問にお答えいたします。

町では2年前から、地域防災力の底上げを目的に、地域の実情に即した防災マップを含む地区防災計画の作成推進を図るため、自主防災組織の皆様を対象に、防災の専門家による研修会を実施しております。防災マップは、誰かが作成したものではなく、住民の皆様自らが日常に即した形でつくるものでございます。

したがって、できるだけ多くの方が自らの地域を実地に知っていただき、危険箇所等の洗い出しをするなど、時間と労力をかけて作成することが大切でございます。

また防災マップを作成していない地域には、協働のまちづくり推進課とタイアップして、地域担当職員とともに、地域密着型のマップづくりができないかということも検討しております。マップ作成に携わっていただいた方が未来の防災や地域コミュニティの中心になっていけるような体制づくりが大切だと考えております。

私からは、答弁以上でございます。

○議長（山村美咲子君） それでは、2回目の質問を行っていただきます。

山田議員！

○4番（山田美津代君） ごみ町民会議のアンケート結果を書いていたいてまして、防災機能を持たせた公園緑地とか、中央公民館など教育文化施設を整備とか、防災機能を備えた複合的な施設を整備する。また、施設整備を望まない。財政の負担増にならないような町の計画の下、施設整備が必要であるならば検討するというようなアンケート結果の御回答をお示しいただきました。ぜひ若い階層の方も入れた委員会にしていくということですが、やっぱりこれからの10年、20年先を見据えたそういうパークをつくっていただきたいと思います。お隣の田原本町や樫原市、もちろん人口の多い奈良市、郡山市などもスケートボード場とかできております。新興住宅があちらこちらにできていて、そういう住宅街の道路で子供たちがスケートボードで遊んでいるのをよく見かけるんです。本当に危ないと思うんです。事故が起きるんじゃないかと思って、はらはらしながら見てるんですけれども。前に田原本のほうでも50軒ぐらいの新興住宅のところを私ちょっと歩いてましたら、お巡りさんが何人か来て、何かと思ったらい子供たちがスケートボードで遊んで、それを危ないと通報した方がおられて、注意しにお巡りさんが来た。親御さんとか子供たちにここで道路で遊んだら危ないから駄目ですということ言われていたのを見たことがあります。そういうことがあって、田原本では早くスケートボード場ができたんかなというふうに思うんですけれども。資料を見ていただいたらいいと思うんですけれども、田原本町の生涯学習センターにお聞きしましたら平成30年に東京オリンピックで注目を集め、財源は宝くじ助成の活用で、旧ゲートボール場を改修し、屋根もつけ、1,300万円で作られた。初めは無料だが今は600円いただいていると。ローラースポーツ連盟に運営を委託して、スクールも開催しているとのことでした。田原本町、本当に先見の明があると思います。評判と実績で見る子育てしやすいランキング、これ日経のBP社の調査なんですけれども、坂野議員も言われていたみたいに広陵町に移り住んでいただいて、また長く移り住んでいただけるように子育てしやすいランキングというのが出ましたので、広陵町もそういうランキングにぜひ載れるようなことをしていただきたいと思うんで

す。

2023年に東京都の中央区が1位でした。2位は千代田区、5位には箕面市、8位には明石市、346市区を対象にされています。1位の中央区は歩道など安全面に配慮した道路整備、職住接近が可能、病院・診療所が多い、そして子供向けの体育・文化活動が盛んなど、8項目が全体でトップテンに入るインフラの充実が特徴です。5位の箕面市も子供向けの体育・文化活動が盛んなど得点を上げています。やはり子供向けのスポーツ施設がこれからの人口維持には不可欠な要素だと思います。今すぐつくれとは言いませんけれども、やっぱり検討委員会でこういう御意見があったということをごひ入れていただいて、実現に向けて検討していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 奥田住民環境部長！

○住民環境部長（奥田育裕君） ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

議員からは、子供向けのスポーツ施設をということで御提案をいただき、ありがとうございます。答弁にもございましたけれども、跡地の利用につきましては、今後、新たな会議体によりまして恐らく検討していくということになっていくだろうとは思っております。その中にまだまだこれからの検討すべき課題も含めて多いと思いますので、現時点ではいろんな可能性があるというふうに思っています。この入り口の部分で、あえて狭めるような検討の幅を狭めるようなことはしたくないというふうに思っておりますので、御提案いただきました子供向けのスポーツ施設というのも含めてしっかりと今後検討してまいる必要があるというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 公民館を建てることに難色も示しておられて、軽運動室なんかもいきなりチラシ1枚で使えなくなるというようなことがありましたけれども、町民は何か生きがいを求めているいろいろなレッスンなどをする場や会議室の確保が難しいときがあります。軽運動室もそういうふうに使われなくなって使えなくなる部屋が奪い合いにこれからなると思うんです。このスポーツ施設に多目的室もつくっていただき、施設の規模によりますが、そういう高齢者のための部屋とか会議室も検討にぜひ入れていただきたいと思います。

公共施設を削減しているのに、こんな計画に幾らお金がかかるか分からないと否定するのではなくて、先の未来を見通した計画を立ててほしいです。また移住してきた子供たち、若い世帯へのここに住んでよかったと思えるものがないと、また移り住んでいいところ、王寺町に行ったりとかさされてしまったらやっぱりいけないので、3万人の人口を維持していくのに必要な施設としての位置づけをしていただきたいと思いますと思うんです。これ以上、これからの計画に入れていただくということなので、これ以上の答弁は期待できないと思うので、このことに関してのほかの質問に移ります。

リレーセンター南側に子供たちのサッカー場がありますよね、ちょっと緑の。そこ、クリーンセンター開始とともにできたと思うんですけれども、トイレは仮設だし、夜間照明もなく15年以上過ぎています。以前照明が欲しいということで、移動照明をしていただいたことが、ふだん公民館に置いておいて、必要なときに持って行って照明を使うというようなことをしていただいたんですけれども、今はされていないようなんですけれども、いまだに照明もなく、トイレも仮設のまま、

女子児童もサッカー、なでしこが活躍するに従い、サッカーをしたい子も増えてくるのに、この状態ではあまりにもひどいんじゃないかなと思うんです。ですから、その跡地の検討が、スポーツセンターにしてもらったら一番いいんですけど、そこへ行くまでの間、整備がここも要るんじゃないかなと思うんです。いずれきちんとできるのかなと思ってもう15年以上たっているんですけども、ぜひこのところの整備というのでも検討していただきたいと思うんですが、このところは何も考えていないんでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 奥田住民環境部長！

○住民環境部長（奥田育裕君） お答えをさせていただきます。ちょうどおっしゃっていただいたクリーンセンターの南側の芝生広場と呼んでいるところでございます。その場所も含めての跡地利用の検討という形になってまいりますので、そういった意味では、これまでである意味仮設的な感じで使ってきたというところでございますので、現状の様子がそういうことでございます。これから現在行っておりますごみ処理町民会議がございまして、その後先ほど言いました新しい会議体で仮に協議を議論を進めていくとなれば、現在のごみ処理町民議会から提言書が出されまして、それを受け取ってから3年以内にその跡地を決定するというお約束を新しい協定書ではさせていただいておりますので、そういった期間との少し兼ね合いもございまして、どこまでおっしゃっていただいているような、御不便をおかけしてる部分というのはあるかと思っておりますけれども、いわゆるその投資をどこまでするのかというところの少し期間的な兼ね合いもございまして、それは少しお時間をいただいて検討する必要があるのではないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） こどもまんなか宣言もしたんですよ。やっぱり子育て、3年か5年ぐらいかかりますよね、今から検討して決めて、検討委員会を立ち上げてどうするか決めて、そして予算を立てて、サウンディングとかしていくのに、まだ何年かかるのに、このままほっとかれるんですかね。もう本当に宣言を出したのに、全然あのままではやっぱり子供たちかわいそうだと思うんです、一生懸命練習するのに。何も考えておられなかったと思うんです、あそこ通られても。でも私はあそこを通るたびにまだ何も、仮設のトイレやし、照明もないし、本当に子供たち使いにくい中、辛抱しているんだなということを常に思うんですけれども、全然そういうことは考えておられなかった。今、私言ったんですから、ぜひその何年かの間だけでもきちっとしたトイレとか、照明とかして、子供たちが練習しやすいところに変えていって。数か月だったら我慢できますけれども、これからまた3年、5年辛抱させるって本当にかわいそうだと思うんです。ぜひそこに予算を取っていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 奥田住民環境部長！

○住民環境部長（奥田育裕君） 議員がおっしゃっていただいているのも分かるんですけども、例えば今現在もリレーセンターの建物もございまして、その中にはきれいなトイレもあるわけですので、利用としては、そういったところも使うというのも一つ考えられるのではないかなと思います。新たに、それこそ建ててしまっ、何年か後に、3年、4年もしているうちにまた壊すというような形にもなりかねないところですので、今、現に少し距離はあるといえどもありますけれども、駐車場ぐらいの距離ですので、そういったところにも施設としてはありますので、その辺をうまく利用

していくというのをまず考えるほうが、本当に困っておられるのであれば、まずそれを先に考えるというのが先決ではないかなと思っております。

以上でございます。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 放課後に子供たち行くんですよね。そのときリレーセンターの入り口閉まっているん違いますか。閉まってないんですか。

○議長（山村美咲子君） 奥田住民環境部長！

○住民環境部長（奥田育裕君） 閉まっているというのは閉まっています。ただ、おっしゃっていただいているのは、本当にそれで子供たちが困ってて行き場がない。練習に集中できないとか、やっぱりそれは不便だということであれば、考えなければいけないということなんですね。だからそれをいきなり施設を建てるということじゃなくて、横に施設がありますので、それを開ければいいだけのことなんです。だから今開けるか、開けないかということを私はここで明言はできませんけれども、せっかくそうやって使える施設があるんだから、本当に困っているのであれば、それを開けるようにすれば本当にこどもまんなかになると思います。そういうことでございます。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 今までほっといたということが私すごく問題だと思うんですけども、そういうことができるんだったら、でもサッカーの練習の服を着て、ぱっとトイレに、そこまで走って、駐車場を通って行けるのかなというのがすごく疑問なんですけれども、でも少しは前進かなと思うので、ないよりましかなと思うので、ぜひその方向を1回御検討ください。

次に行きます。

新興住宅の問題ですけれども、町を走っていると、こっちも開発、ここもやんって、本当にあちこち開発されているんですよ。驚きます。多くは農地でした。ここ10年で耕地面積が560ヘクタールあったのが令和4年498ヘクタールと62ヘクタール減少しています。そこへ、まだまだ宅地開発が止まらず、農地は減り、若い世帯が移り住んできます。当然、子供たちが増え、学校や学童、保育所の人数が増えますね。西小学校学童を赤部公民館という話が総会で出されました。平尾に新設されたあすなろ第二学童は、なぜもっと人数が多くなる見込みで計画されなかったのですか。見込みが甘かったんでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 吉田けんこう福祉部長！

○けんこう福祉部長（吉田英史君） 平尾の下のところの新館のほうをおっしゃっていただいていると思います。当時そういった人口、子供たちが増えるという想定を持ちまして、その計画をしたということだと考えておりますけれども、現状、先ほどの答弁にもありましたとおり、学童の利用率自体が非常に増えておる。ここ5年で見てもかなり増えておるという状況ですので、少し想定以上だったという面もあるというふうに考えております。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 想定以上のことって起きるんですよ、このように。でも開発ばかり進めてたら、想定以上のことが起きるということは私分かると思うんですよ。

午前中、東校区も北校区もですけども、公民館を利用しないと待機児童が出るということでインフラが追いついていかない現象が起きていて、子供たちにしわ寄せがいつています。あちこちで

混乱が起きているということですよ。町は人口減少を見越して、建物を建てる計画はしません。でも要るものは要るんじゃないですか。人だけ集めておいて、足りない施設は既存の適さないものでも活用させるというやり方でいいんでしょうか。学童保育というのは、40人定員、児童1人当たり1.65平方メートルいるのではないのでしょうか。コロナやインフルエンザの集団感染の対策も公民館で取れるのでしょうか。ただ場所だけ与えればよいというわけにはいきません。子供たちの居場所として居心地のよい学童でないといけないのではないかなと私は思うんです。夏休みなんか朝から夕方まで長い時間過ごすんです。公民館だったら外遊びなどどうされるんでしょうか。この辺のところをどういうふうに検討されていますか。

○議長（山村美咲子君） 吉田けんこう福祉部長！

○けんこう福祉部長（吉田英史君） 午前中、南郷公民館の件が出ておりましたので南郷公民館での公園等の外遊びの件だということで、答弁のほうをさせていただきます。

南郷公民館の近くに旧の南保育所跡地、南郷区がゲートボールで使用されておった町有地がございます。そこまで一、二分あれば行ける距離ですので、そこも活用しようではないかというふうに考えているところでございます。

それからそのほか、西校区のことをおっしゃっていただいていると思いますけれども、現状まだ決定はしておりませんので、いろいろ地域のほうと今詰めておる状況でございます。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 午前中、町長は教室をそのまま学童にとかおっしゃいましたけれども、やっぱりそれでは、居場所というのにはならないと思いますし、子供たちずっと学校の延長で、本当に気を抜く場所がないんじゃないかなと、それはちょっとと思います。居場所というものの大事さですね、子供たちが安心して過ごせる、そういう場所を本当に考えていかないと、ただ場所だけ与えて、そこに50人入れるから、赤部の公民館のそこでいいんだというだけでは、やっぱり長時間過ごす学童保育として私は適さないと思います。やっぱりこれだけ開発されて、きちっとこれだけの人数が増える。学童のこれだけのニーズもあると思ったらプレハブでもいいから建てていただく。このようなことも検討していく必要はあるんじゃないですか。やっぱり先ほどから言ってますように、こどもまんなか宣言をされた広陵町ですから、要るものにはやっぱりお金を使っていきましょうよ、子育て支援として。これからもっと若い世帯が、さっき言ったようにあっちもこっちもまだ開発されているんですから、これからの見通しですね、これらの地域の公民館もすぐ狭くなりますよね、思いませんか。赤部の公民館も今50人待機児童がいるからその解消に使わせていただくと。だけでももっともって増えたらまた足りなくなる。どうされるおつもりでしょうか。将来は、人口が減っていくという見通しを立てて、そういうものはつukらないというようなお考えだと思っただけですけれども、今必要なものは建てる。プレハブだったらまた解体もできますし、今のプレハブって前よりもすごく空調なんかよく効くし、以前のプレハブのイメージとは大分違っていると思います。性能がよくなっていると思います。ですから、西校区とかをこれからどうされる、公民館をお借りしても待機児童が出るようなことになったらどうされるおつもりなんでしょうか。東校区は幼稚園跡地に何人入れる。あとの東校区こども園ができたならその幼稚園が空くのでというような御計画もあると思うんですけれども、そこには何人入れる予定なんでしょうか。西校区はどういうふうに思われているんでしょうか。これから先のことも見通しをお聞かせいただきたいと思いま

す。

○議長（山村美咲子君） 吉田けんこう福祉部長！

○けんこう福祉部長（吉田英史君） まず東校区のほうからお答えさせていただきますけれども、令和8年度、東幼稚園の閉園に伴いまして、東幼稚園の跡の校舎を少し手を入れまして、学童専用の施設として使用するというふうに考えております。全ての教室とそれから多目的室もありますので、あとは状況によっては職員室をどう活用するかというところもあると思いますので、そこは全員が受け入れることができるような状態で活用していきたいというふうに考えております。場合によりましては、少し不足する場合につきましては、また小学校等の利用も考えられると思いますので、令和8年度東小学校区につきましては、希望する全員が入れるものというふうには考えております。

また西小学校区も今、不承諾のほうを出ささせていただいておりますけれども、午前中の町長の答弁にもありましたとおり、例えば将来的には教室の利用というところもやっぱり考える必要もあるかなというふうには考えています。すぐにとということであればプレハブということも話に出ましたけれども、プレハブを建てるにしてもかなりのお金が必要になってまいります。うちのほうで試算もしておりますけれども、やはり多額の税金を投入しなければならないということになりますので、まずはあるものを活用していきたい。それは地域の公民館も含めて、あるものを活用した方向で運営してまいりたいというふうには考えております。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） プレハブを建てるのに多額の費用ってどのくらいかかるんでしょうか、教えてください。

○議長（山村美咲子君） 吉田けんこう福祉部長！

○けんこう福祉部長（吉田英史君） 申し訳ございません。今ここに幾らかというまでの資料を持っておりませんので、また後ほど分かれば報告をさせていただきたいと思っておりますけれども、やはりプレハブを建てるにしても、そんな何百万円で済むわけでもないですし、何千万円単位のお金が必要になってくるというふうに考えております。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） あすなる第一の学童クラブの北側が土のうが積んであって、前に谷さんも指摘されていましたが、あそこを2階建てとかに建て替えるとかいうことでは解消はできないのでしょうか。建てる間、また平尾の公民館のお願いしないという問題も出てきますけれども、西小学校の待機児童の解消といたら、私それぐらいしか、あとほかに小学校のグラウンドの近くといたらあそこしかないし、いろいろ考えるんですけども、そういうようなことはやっぱり西小学校をもっと広げることが御検討されていて、それは無理なんでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 吉田けんこう福祉部長！

○けんこう福祉部長（吉田英史君） 西小学校、新しいところを建てましたけれども、そこには少し土地もまだありますが、そこは進入路の問題がございます。そこにお迎え等で保護者の方が車で通っていただくに当たりまして、やっぱり地域の理解を得られるかというのもありますので、まだまだ検討しなければならないというふうに考えております。施設のほうも、あすなるのほうもかなり老朽化しておりますので、それも含めて考えていきたいというふうには思っております。

先ほど、プレハブの件もありましたが、下の新館を建てるときにも検討いたしました。ほぼ建てるのと同じぐらいかかるというような試算でございました。プレハブであってもその時点で8,000万円程度の金額が必要であったというふうに聞いております。

以上でございます。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） プレハブでもそんなにかかるんだったら、あすなろ第一のところを解体して、そこを大きくしましょう。ぜひそういう方向で言っていただけたらと思いますけれども。

また、通学路のことを前に進みます。

沢のマンション前ですね、御答弁で抜け道の対策として主要地方道天理王寺線のバイパス道路である長楽工区が完成すれば、交通渋滞の緩和につながるからということなんですけれども、ちょっとここどこがどういうふうになって交通渋滞が、長楽の工区というのがどこの部分なのか、ちょっと分からないので教えていただけますか。

○議長（山村美咲子君） 中川理事！

○理事兼都市整備部長（中川 保君） 天理王寺線は、西大和ニュータウンの中を通っている4車線の道、あれは西和警察署の前を通って国道24号線とつながってると思うんですけれども、それがずっと天理のほうまでつながる広域の幹線、主要地方道なんですけれども、その道がちょうど、あれは井屋さんがありますよね、池部のほうから来まして、池辺の山を越えて、その道を越えて、大和高田斑鳩線にぶつかって止まっていると思うんです。そこから長楽を抜けて河合のほうへ行くんですけれども、北向いて。その区間がまだ田んぼのままできていない。ですので、あの突き当たりの交差点から西穴闇の交差点を回って、そこから河合の村の中を通って、今、曾我川にできている新しい橋を渡って、向こうへ渡ると天理のほうへ抜けるようになるんですけれども、その道のそのバイパスの区間というのが長楽の区間なんですけれども、そこができていないもので西から来てぶち当たって北へ行って、西穴闇、その間を通る車があったり、また逆に南へ回って、第二浄化センターの外周道路を通っていく車もあって、それが真っすぐ通り抜ければ県道の大和高田斑鳩線を通る車が減ってくるんです。ですので、かなり渋滞が解消されると考えています。今、大和高田斑鳩線の東側を並行して走っている町道、それが30キロの制限をかけている町道なんですけれども、そこを抜け道に通られる方が非常に多い。ですので、そのバイパスが早くできれば、大和高田斑鳩線の渋滞も緩和されてくると考えられますので、また新たにその道に、天理王寺線のところとその抜け道が交差するので、そこに信号ができますので、その信号は多分細い道なので長い赤信号になると思うんですよ、その細い道に対しては。ですので、そこを通るメリットがどんどんなくなっていけば、通り抜ける人は減っていくだろうなというふうに考えております。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） でも大分先の話ですよ。だからそれまでの間、私、いつも長楽のほうに、北から南に通勤の車をその時間帯だけエスポワール広陵の前にとめて、通学時間帯は。長楽のほうへ、県道のほうへ抜けていったらエスポワール広陵の前の通学路は安全じゃないかということを前から提案させていただいて、区長さんにもそういう提案をしているんですけれども、なかなか広陵、それから河合、またがって要望していかないといけないのでなかなか進まないんですけれど

も、そこができるまでの間、そういうような交通規制をして子供たちの安全を守っていくということは進めていただけますでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 中川理事！

○理事兼都市整備部長（中川 保君） 沢のあそこの通学の問題もございまして、今、よく言われているのが寺戸北交差点からの抜け道で、寺戸の集落の中を通り抜ける車が多くてあそこにも新たに3・4・11の住宅が建って、子供さんが行列を成して通学されているんですけども、そこも危ないというお話もあって、そういった部分も含めて、香芝署とはお話しさせていただいておりますけれども、なかなか規制という話になると、一般の方のデメリットにもなるので、そこはなかなか進まないところですけども、継続的に調整させていただきたいと思います。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 本当に開発優先だと、そういうふうにしわ寄せが子供たちに行っているというのがよく分かると思うので、ぜひ開発とともに、そういうインフラも整備していくということをご予測立ててしていただきたいと思います。事故が起きてからでは遅いと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

それから開発により県道が今言った沢のところ、がたがたの部分も県に改修を要請していただかないと自転車で歩道を通行中、こけてはるねんて。だから事故が起きる前に、歩道で町道側にこけたらいいけど、県道側に行ったらひかれてしまうので本当に危ないと思いますので、よろしく願いいたします。

それから防災マップ作成のほうに行かせていただきます。

毎日、どこかで地震が起きています。千葉でも起きてて本当にこちらの方たちも御不安だと思います。南海トラフが来る前に備え、各大字や自治会ごとに防災マップの作成が要るのではないかと思います。町が何かの間、消防委員会のときにお答えで町の防災マップをつくるというような御答弁をいただいたと聞いていたんですけども、この防災マップの作成というのは、私ここに資料で載せさせていただいているんですが、このような詳しいものなんでしょうか。どのようなものなんでしょうか。御答弁の中でも誰かが作成したものではなく、住民の皆様自らが日常に即した形でつくる危険箇所等の洗い出しをするなど、時間と労力をかけて作成することが望ましい。担当職員とともに地域密着型のマップづくりができないかということも検討していますというように御答弁をいただいておりますが、このような防災マップ、地域の防災マップをつくっていただく御計画があるのでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 井上危機管理監！

○危機管理監（井上智裕君） お答えいたします。現在というか、来年度に向けて町のほうで計画しているハザードマップに関しては、県のほうから中小の河川のいわゆる浸水予測というのが出ましたので、これを受けて、現在ある防災マップを更新するところが出だしになっております。更新するのに合わせて、なるべく使いやすいものということで、例えばウェブ版をつくったりだとか、インターネット上で同じものが見れるようにしたりだとか、あとは水害マップと地震マップを一つの冊子にして見れるようにするとか、町がするのは町全体を捉らまえたそういった災害マップになります。議員が提示していただいている、この町の防災マップ的なものは、我々のそうやってつくった防災マップをいわゆる基礎にして、各大字とか、校区とかで、まさにこの学校の下校時間

中に何か来たらこっちに向いて逃げましょうとか、そういった実地に住んでいる人がつくり込んでいくものでございます。その部分で、町長が誰かがつくるものではありませんというような答弁をさせていただいたというふうに私は理解しておるんですが、議員さんが今御想像されるこの提示されている、ここまでの住民の生活に直結したものというマップとはちょっと違うと思います。微妙にずれていくと思います。そういうのをつくるための根拠になるものです。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） ちょっと資料を見ていただいたらいいと思うんですけど、ある奈良市の防災マップなんですけれども、地震防災地図、四角の中のこの凡例をちょっと見ていただいたら、県道、建物、数字は階層を示す。ここに凡例にあるのはK3と書いてあるから3階建てですね。それから木造住宅、瓦の落下方向、そしてその下には非住居建物の出入口、三角印で表されています。それから土塀ですね、土囲い。下はコンクリートブロック塀、その下が板、トタン塀、金網のところですね。それから電柱の変圧器ありとなし、消火栓、埋設式、井戸と自動販売機と、これを多分住民の方たちが専門家の人と一緒に歩いてこれをつくられたと思うんですけども、この防災地図の真ん中、赤いところはこれ多分集合住宅だと思うんですが、2階建てということで、赤い斜線で引いてあるところ。瓦の向きとか、それから建物の出入口とか、全部詳しく載せて、こういうものに基づいて避難計画を立てるとか、こういうのがあれば本当に安心して避難できるんじゃないかなと思うので、各大字とか自治会にこういう例をお示しになってつくっていくという、本当に丁寧なことが要ると思うんですが、こういうのがあればすごく町民の方も南海トラフに備えて安心できるんじゃないかなと思ったんですが、町全体のものをつくられるということの御答弁でしたけれども、前に頂いた洪水のハザードマップ、井上管理監、来られる前ですけどもね。あれは本当に県のを直接そのまま町のハザードマップとして使われていたように思うので、やはりあれでは安心できないと。大体浸水地域はわかりますけれども、やっぱりそれだけではハザードマップが分かるだけでは不安は浸水地域以外のところは安心かもしれませんけれども、やっぱり地震とか火災とか、そういうものがやっぱり私の住んでいるような密集の古い在来地では不安だと思いますので、これだけの詳しいことを調べて、そしてマップにしていれば本当に安心じゃないかなと思うので、少しずつでも一つの大字からでも、平尾が少しつくりられていますけれども、これだけの詳しいものではなかったんですけども、先進的な平尾からでもつくっていただけたらと思うんですけども、その検討と推進はしていただけますでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 井上危機管理監！

○危機管理監（井上智裕君） お答えします。こういったマップを仮に私どもは率先して、例えば何々地区の皆さん、こういう地図をつくりましたので、御参考にしてくださいと渡しても意味はないんです。何でもかといったら誰も見ません、はっきり言って。いざ本当に避難の緊急性とかを感じた方々が実地に自分のまちを歩いていただいて、そのときにどういうところが危険なんだ。いや、こういうところが危険ですよ、こういうところは気を付けたほうがいいですよ、そういうアドバイスは私たちはできます。それを結果として地図に反映された結果、こういったものが出来上がればいいなというのが私とかがこのまちで反映させていこうと思っていることであって、こういうものを私がこれよりもいいものなのか、悪いものなのかは別にして、何がしかを提供して、これでやってね、それはないです。根拠的なものは、もちろんまちの義務としてつくりませんか。それはしっ

かりつくられる。限られた範囲であれ、その中でできる限りのことをしたいと思いますが、まさに実地に防災の行動につながるようなものに使う。一番大切なものは最終的には皆さんの頭の中か、皆さんが手で描いたものか、そういったものを使っていたかかないと、本当の災害の場面で生かせるかどうかというのは、私は甚だ疑問に感じます。

以上です。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） こういう各自治会と区ではもう知ってるよって、こんなところに土堀があるとか、ブロック塀があるとかもう知ってるよというふうに思われるかもしれませんが、新しい方が移り住んできておられるんですよ。ですから、そういう方たちも含めて今管理監がおっしゃったように、自分たちで歩いて危ないところを予測して地図に落としていく。これこのまま使えと言ってるんじゃないんですよ。その行動が大事だということを私はお示しをさせていただいてるということです。

時間がないので、防災備蓄のほうに移りますけれども、最低これだけは要ると、進んでいるところの大字とか自治会のリストを見せていただいて、自分のところはここまで行ってないな、もうちょっと上限の5万円頂いてそろえていこうとか、私が赤部の区長に進言したときに生理用品とか、粉ミルクとか液体ミルクとか、そういう視点は全然なかったというふうに言われておられました。だから役員さんの中でやっぱり女性が必要だなと思ったんですけれども、なかなかそういう在来地では女性の役員さんというのはおられないので、そういう女性の視点というのがすごく抜けているところも多いと思うんです。でもここではこういうことも備えていますよという、そういうリストを示していただいたら、自分のところではこういうのが抜けているとか、そういうことが分かって、そこまで高めていくということもできるんじゃないですか。そのときにその5万円が適当かどうか分かりませんが、これだけのものを備えたいから、ぜひ町も支援してほしいということで、やっぱり今、防災意識ってすごく能登半島地震の後に、町民の間で芽生えてきていると思います。不安にも思っておられると思います。うちの大字の防災倉庫は大丈夫か、自分の家のところも備えを充実させている方も多いと思いますけれども、区とか自治会での防災備蓄も大丈夫かなというふうに思われている方も多いと思いますので、ぜひそういうリストを出していただいて、先進的な例まで高めていただければ、そのために町として支援金を出すということをもう一度、自治会長会とかで言っていただいたらどうかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（山村美咲子君） 井上危機管理監！

○危機管理監（井上智裕君） 議員おっしゃいますように、能登半島の地震等から今いろいろな情報が入ってきております。この情報に関しては、どれもが合ってるのか合っていないのか、多分そういった精査をこれからして行って、次に生かしていかなきゃいけないといったところがあります。その中の一つに、備蓄品がこの内容とこの量でいいのかという検討はあります。多分そういった今まさに広陵町でも来期に向けて、備蓄品の内容の見直しをしようとしているところなんですけど、じゃあ、何がどれだけ必要なんですか。まず必要なもの、例えば水だけに限っても全く倉庫に収まる量じゃないです。そうすると、どれぐらいのものをどれぐらいの量、恐らくいろいろな種類を置いてたものが徐々に優先度の高いものに集約されて行って、今よりはもうちょっと量を備蓄しましょうという形になるんじゃないかなと。そうすると、議員さんがおっしゃるような量も数も全く

満足できないということが恐らく想像できるんです。じゃあ、どうするんですかと。今、それはいろいろ課の中でもいろいろと検討しているところなんです、要は外側からの受援に関してもうちょっと考え方を精査していかなきゃいけないなというのを検討しているところです。

○議長（山村美咲子君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 量だけ増やせと言ってるんじゃないんです。やっぱりそういう女性の視点みたいなものが欠けていたところにきちっと先進的な例で備えてほしい、充実させてほしいということを申し上げていますので、ぜひその方向で行っていただきたいと思います。もし御答弁があれば。なければ終わります。

○議長（山村美咲子君） 以上で、山田議員の一般質問は終了いたしました。